



## 【おうち英語】おうち英語っ子と音読

世に数ある英語学習法ですが、  
その中でも英語学習法として昔から評価されている  
音読という技法。

一般的に中高生、大人向けの英語学習法としての  
【音読】は非常に人気があり、推奨されることが多いですね。

そんなところから  
「おうち英語でも音読は効果があるのですか？」  
というご質問を受けることもよくあります。

今日は「おうち英語っ子と音読の付き合い方」という  
とてもニッチな話題を取り上げ、  
私が思っているところを書かせていただこうと思います。

### ■目次

【音読】という技法とは  
学校現場における【音読】  
おうち英語っ子に音読は必要か  
暗唱はどうか…

### ●【音読】という技法とは

英語学習法として効果が高いと支持されている音読。  
「第二言語習得において音読は基本中の基本」  
とまで断言される先生もおられるくらいです。

私も自分のヘッポコ英語に嫌気が差してやり直し英語を志した時、  
音読を扱った書籍を購入し、  
音読を英語学習に取り入れていたことがあります。

音読を取り入れた理由は、音読の評価が高かったため、  
藁にもすがりたい状態だったので  
とりあえず何でもやってみようと思っただけに過ぎません(^\_^;  
「そんなに良いならやってみよう」  
と自分を実験台にした感じです。

飽きっぽい私ではありますが、  
当時は自分の英語力にかなり深刻な危機感を持っていたため、  
購入した本1冊はしっかりと取り組んだ記憶があります。

その本はシリーズ本でしたが、結局は続編を購入することはありませんでした。。

何事にも向き不向きがあると思うのですが、  
音読という手法で私が望んでいるスピーキング力UPは望めないと思ったからです。  
1冊しか取り組んでいない人間が何を偉そうに、、、という感じではありますが、  
求めている何かが違ったのですよね。。

私が感じる音読の効能は、  
兎角読み書きに終始しがちな日本の古典的英語学習を脱し、  
実際に英語を口にすることで、  
英語独特の抑揚、発音を練習し、実践的な英語学習の第一歩とする、  
というものだと思います。

事実、私が高校生だった時の英語の授業を思い返してみると、  
英語の授業で英語を口に出して読んだ記憶は  
当てられた時に発言する以外になく、  
ひたすら先生の英文解釈に耳を傾ける、  
そして机上で英文和訳、和文英訳を繰り返していたように思います。

そんな英語学習状態からすれば、  
英語を実際に口を動かして発音しながら英語を学習していくということは  
不足を補うということで必要なアプローチなのかもしれません。

しかし、私の場合、  
へっばこ英語スピーカーではあるものの、  
とりあえず大学は英語専攻でしたし、  
(さらに恐ろしいことに)学校で英語を教えていたということもあって、  
「英語を減多に口に出さない」という状態ではなかったのです。  
そんなわけで、英語を口に出して読むという英語学習法から  
私が学べることはそんなに多くないような気がして、  
またまた英語学習ジブシーの道に戻っていったわけですが、  
今回はその話題を多く語る機会ではないため割愛します。。

●学校現場における【音読】

先に段落で述べたように、

私は大学卒業後、教職の道を志し、高校で英語を教えていました。

私が初任で赴任した時の学校の英語の授業は、

私が高校生の時に受けた授業のままでした。

私が大学で4年過ごしていた間に

高校の英語授業には何の進化も起こらなかったということですね。

そんなわけで、私も自分が受けてきたのと同じような

訳読式の授業をひたすら行っていました。

その後、結婚で他県に引っ越す必要があったことで教職を辞し、

教員以外の外の世界も見てみたいと別の職種で働いてみたり、

出産・育児などしているうちに教育現場から遠ざかること10年。。

10年ものブランクがありましたが、

子どもたちの生活スタイルに合わせられそうだったため、

非常勤講師として現場に復帰しました。

(その時、落ちまくった英語力に焦って、やり直し英語に取り組んでました💦)

10年も経っていると本当に浦島太郎状態です。

授業スタイルも劇的に変わっているとは言わないまでも、昔とは違っていました。

一番驚いたことは、音読が高校でも重要視されていたことです。

昔はコーラスリーディングもまともにやらせた記憶がなかったのに、

復帰した時には、「コーラスリーディング」「ペアワーク」というアクティビティを通じて、

何度も何度も生徒に英語を声に出して読ませることが求められるようになっていました。

そのような指導経験がほとんどなかったので、

学校での音読指導の勉強会に参加したり、

書籍を購入して読んだりして、慌てて勉強してました💦

(いつも焦って慌てている・・・)

その勉強会の中身というのは、音読というのはシンプルで単調なものなので、

いかに楽しく生徒たちに読ませるかというアイデアや手法が主な内容だったりしました。

ゲーム要素を取り入れてみたり、リピートさせるだけではなく、  
最終的にはシャドーイングも取り入れることを目標にしてみましょう!みたいな。

黙って英語の授業を受けていた時代からすると、  
実際に英語を口に出して発音する時間が大幅に増やされたことは、  
第二言語習得としての英語の授業として改良された気もしますが、  
一方でかなりの時間をその音読・ペアワークに割くことになるわけですから、  
その他の内容が薄くなったとも感じ、色々と複雑に思うことはありました。

授業時間は今も昔もだいたい50分の学校が多いですから・・・。  
そしてその音読がもたらす効果にも多少の疑問を持ってしまったり。。  
50分という授業時間で20分弱を読み練習に充てたとしても、  
3単位の授業だと結局は1週間に4、50分しか英語を口にさせていないことになります。  
昔より増えたとは言っても、相変わらず時間自体は  
英語習得に必要な時間としては少ないわけです。

そして英語学習法というのは、  
ダイエットとよく似たところがあり、その手法に流行り廃りがあるような気がします。

結局のところの奥義は、  
ダイエットだったら「食べ過ぎない、運動する」、  
英語だったら「毎日コツコツと英語に触れてアウトプットすることを繰り返す」  
ということが真理だと思われるのに、  
それが面倒で嫌だから、なんとか楽をする方法を探して  
あっちへ行ったりこっちへ行ったりして迷走しているのが人間の悲しい性であるような。。

先日、去年まで高校生だった娘が、  
同じ高校へ進学した弟に定期テストの勉強法を伝授していました。  
それらは完全に定期テストを乗り切るだけの対策法でしたが、  
英語のテストの勉強法の部分を聞いていたら、

「とにかく音読だよ。音読。口が疲れるまで読むんだよ。」

というアドバイスが出てきてビックリ!

お、音読!

音読がそんなに効果的なのか?!

私が気付かなかっただけで?!

と思い、娘にさらになぜ音読なのか詳しく聞いてみると

「えっ?!何回も読んだら覚えるじゃん。

学校のテストは1語でも違う単語使って書くと×になるんだよ。

だから完コピで覚えないとダメだから覚える手段として読みまくるんだよ。」

と言われてしまいました(´▽`);

まあ、確かに音読というのは

【暗記法】としては昔から有効な手段だと言われていますよね。

口を動かすこと、耳からその声を聴くことで、

一度の行為で2つの知覚を働かせることができるわけですから、

覚えるという手段には使えますよね。

私も中・高校の時、理科や歴史の重要用語をブツブツと言いながら、

おまけに手も動かして書きなぐり、

知覚を総動員してなんとか覚えようと努力していましたっけ・・・。

とりあえずおうち英語っ子と呼ばせていただきたいわが家の娘も

中・高では授業で音読させられ、

テスト勉強で音読を暗記分野で活用してきたようですが、

実際のところ、それで英語力が飛躍的に伸びたということはないようです。

授業中は失礼ながら「退屈だな～」と思っていたのが本音のようです。。

noteは有料で配信させていただいているので、

ズバリ本音を書けちゃいますが、学校で教えている時、

正直私は音読の時間、「楽だわ～」と思ってました(爆)

そんなスタイルの授業を10年ほど続け、2年前に講師の仕事を辞めたわけですが、

正直音読に効果があったのかどうかわかりません。

テストの点数が爆発的に上がったとか、

昔の生徒より英語力が急上昇しているという実感は持ちませんでした。

授業内だけの音読だと暗記としての効果も微妙な気がします。。。

そしてこの音読という手法が今の学校英語でもてはやされているのも、  
穿った見方をするならば、

「英語で英語の授業を行う時間が増やせているように見せられる。(しかも結構簡単に)」  
という背景が透けて見えるような・・・。

実質的に英語を生徒が話している時間は増えるわけですから。

自分の言葉として語っている英語ではなくとも。。。

音読を指示する教員側もそれくらいの英語なら不自由ないわけですから、  
「英語で」授業していると見せかけやすいわけです。。。

そんな経験を個人的にしていることから、

私は音読というのはかなり学習者を選ぶものなのではないかと  
個人的に思っています。

全く声に出して英語を読んでこなかった世代や人なら、

口に出して英語を読み上げることはいろいろな面から効果的だと思います。

口の筋肉を鍛えること、英語独特の発音を身に着けること、  
英語の抑揚をマスターするなど、音読で得られるメリットというのも  
確かに存在すると思います。

でも音読だけやっていればいいというものでもないと思うのですよね。。。

### ●おうち英語っ子に音読は必要か

ここからやっとな今日のタイトルを回収していくことになりますが、

そのような私の考えから、

私は学校英語や一般的な英語学習で行われている音読と言う手法は  
おうち英語に無理に取り入れなくてもいいのではないかと  
思っています。

音読と言っても手法、目的は多岐にわたると思いますので

一概に否定するわけではなく

もちろんリーディング初期に

正しく読めているかどうかを確認する目的、

文字と音を一致させる役割でのシャドーイングなど  
音読させるということが必要な時期はあると思いますが  
漫然といつまでも音読をし続けなければ  
インプットが進まないとか、英語力が向上しないということもないと思いますし  
むしろ音読にこだわりすぎてチャプターブックへ上手く進めない  
という弊害もあるのではないかと感じたりするくらいです。

「リーディング=音読」となってしまうと  
長い本を子どもが読みたがらなくなってきますよね。  
口がカラカラになり、読むことが難行苦行になってしまいます・・・。

少し辛口で言ってしまうならば  
リーディング初期以外に子どもにさせる音読は  
もはや子どものためというよりも親のため、ですね💧  
親が「ちゃんと読んでるわ」と安心したいがためだけ  
と言っても差し支えないような気がします。

いつまでもいつまでも  
子どもが音読していないとちゃんと読めているか不安  
という方に私は聞きたい!

あなたは読めない、そして意味もわからないものを  
何分もじっと見ていることができますか?と。  
(いきなりブルゾンちえみ風)

いや、そんなことできないですよね?!

子どもが黙読で読書に興じているのであれば  
それは意味がわかって読んでいる何よりの証拠です。

もしそれでも間違った発音をしているのではないかと不安に思うのであれば  
その不安を取り除くことを音読に求めるのではなくて  
フォニックスをしっかりと確立させる取り組みに  
シフトさせるべきだと私は思います。

●暗唱はどうか...

そうなってくると今度は暗唱です。

幼児・児童向けの英語教材に暗唱をウリにしている教材があることから、暗唱についても聞かれることがあります。

この暗唱というのは、音読を繰り返した先に出てくるものなのかなと思います。

娘が高校当時に、暗唱例文を一言一句間違えないために、何度も何度も同じ例文を音読しまくったように、何度も同じ文章を口にしていれば、最終的に人は諳んじることができるようになるものです。

私は自分が音読という単調な作業に挫折したこともありますが、暗唱というものもあんまり評価していません。

というのは、音読に取り組んだ後に私が試した英語学習法が良くある「朝から晩までフレーズ集」系の暗唱だからです。。

よく使う表現を覚えてペラペラに見せかけようという狡猾な方法で英語をマスターすることを狙いました。

しかし、こちらも機能せず・・・( -\_-)

私のような凡人でも、それなりに毎日は変化の連続で、同じフレーズばかり話していればいいような単調な言語生活ではありません。

しかも覚えたフレーズですら咄嗟に口から出てこないという。。

何のために私は覚えたんだ・・・

言語とは、「自分の言葉で自分の気持ちを語るものなんだ・・・」ということをただただ痛感し、フレーズ集暗唱からまたもや撤退した経緯があります。

娘の分厚い暗唱例文集の暗唱は  
大学入試の突破にはいくらか役に立ったものの、  
大学生になった今はきれいサツパリ忘れてしまっており、  
覚えたものを実際の会話で使うということは全くないようです。



なぜだかわかりませんが、日本人って暗唱好きですよ。

学校で、英語の教科書一説、憲法前文、国語で短歌や詩、百人一首などありとあらゆるものを「覚えてきなさい。」と言われた記憶が山ほどあります。。

記憶力の悪い私は「簡単に言いやがって!覚える方の身になってみろ!」と毎回腹を立てながら、必死で覚えようと虚しい努力を重ねていました。。

なんでもすぐに「覚えましょう」と言われることが本当に多くないですか!!!  
(ここで積年の恨みをぶちまける私・・・)

個人的に、江戸時代の寺子屋で漢文を正座して暗唱していた日本人古来の DNA がそうさせるんだと信じています。正座して読んでおけばなんでも覚えられるんじゃないか?みたいな。

しかし、なんでもそうですが、覚えただけじゃ使い物にはならないんですよ。日本の学校教育が暗記中心であるために思考力が育っていないとの反省から、最近「思考力!思考力!」と声高に叫ばれるようになりました。

「大学入試問題を変えれば変わるんじゃない?」と急に舵が切られているような感じを覚えますが、覚えたものをどう使うか、そして無機質に覚えたものが本当の意味で使い物になるのかという教育の質の根本が問われるようになってきているように思います。

そう思うと、いろいろなことを経験しながら母国語方式で英語を身に付けていくおうち英語では音読も暗唱も一生懸命取り組まなければならないことではないと私は思うのです。。目的に応じて必要最低限に取り入れていくのがベストなのではないかと。

音読に限らず、私たち親世代が経験した学校英語、大人になってからの英語学習における概念をおうち英語に持ち込まないことが大切な視点なのかなと思っております。

おうち英語こそ、言語習得の奥義だと信じているおうち英語 LOVER である私の偏った意見でしたが、ご参考まで(^^)